

平成 24 年度

事業所名：グループホーム なかがわ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900108		
法人名	特定非営利活動法人いわて地域支援センター		
事業所名	グループホームなかがわ		
所在地	〒029-0601 岩手県一関市大東町中川字中大畑97番地1		
自己評価作成日	平成25年 3月 6日	評価結果市町村受理日	平成25年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0390900108-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成25年 3月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・毎日の買い物など外出の機会を多く持つことにより地域の一員として生活できるよう、疎外感のないよう支援しています。 ・「〇〇したい」を応援し、生き生きと生活できる環境づくりを心掛けています。 ・入居者様一人ひとりが、ホームの中で、それぞれ役割を持って生活できるように支援しています。 ・入居者様のペースに合わせた支援を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは、地域の皆さんにとって馴染みが深く、慣れ親しんだ旧小学校を改修利用しているユニークな事業所であり、周辺には、この学校に通った子どもたちの家々が並び、校庭など緑豊かな自然に恵まれた山間の農業地帯に立地するホームである。利用者の意向や希望にそって「・・・したい」という気持ちを支援するという理念の下、利用者は、学校・教室という昔懐かしい場を活用した居室や共有スペースの中、必要な支援を受けながらも、出来ることは最大限自分で行い、笑顔いっぱい、心豊かに日々を過ごしている。夏祭り等で、この学校の卒業生などと一緒に楽しい時間を過ごすこともあり、地域との密着した生活が窺える。職員は、このホームを中川地域における24時間灯る”地域の灯り”とすべく、一丸となって地域交流に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

平成 24 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム なかがわ

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を職員全員で話し合い共有するとともに、玄関・ホールに掲示し、常に念頭において支援しています。また職員会議や運営推進会議の中で理念の再確認をしています。	利用者の意向や希望にそって「・・・したい」という気持ちを支援するという理念の具現化を図るため、「ケア目標」を定めるなど、工夫しながら取り組んでいる。また毎月のケース会議等で利用者のケアプランの実施状況の確認や評価する中で、理念の視点が配慮されているかなどを話し合っている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域住民の代表者に出席いただき情報交換を行い、手芸の先生に定期的に訪問していただいたり、前庭で毎年開催される夏祭りや文化祭など地区の行事に参加させていただきました。日常の買い物で近隣のお店で購入したり、かかりつけの医院や近隣の方に広報をお届けしています。一関市の広報も近隣の方が届けてくださいます。	日頃から散歩時には地域の皆さんと挨拶を交わしたり、雑祭りや夏祭り、防災訓練等の地区行事に積極的に参加するなど、地域との交流を深めている。なお、新たにホームの防災協力員として近隣の方の協力を頂くなど、地域の支援体制が高まっている。	より一層の地域の理解、交流に繋げるため、例えばホーム行事のお知らせを随時行ない、日頃からホームの存在を認識して頂けるよう、継続した小まめな地道な取り組みに期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの敬老会で披露した踊りを教えて欲しいと地域の方より要望があり、職員が講師を務めました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。生活の様子を報告し、意見・助言・要望等をいただきサービスに活かしています。構成員の方には、夏祭りや文化祭の参加にあたり、情報や助言をいただいたり、夜間の救急搬送時の報告を行うなど救急時の理解を得るようにしています。訪問看護師にも運営推進会議に出席していただき入居者様の体調管理についての報告をして現状を把握していただきました。	運営推進会議では、委員から「ホームをもっと地域に周知を」、「外出や行事などの際には地域に声がけを」など、貴重な意見が多く出されている。回を重ねるごとに、委員さんから市広報を含め、多くの地域情報を得たり、手芸講師等ホームに協力できる方を紹介してもらったり活発かつ充実した会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との連携は、運営推進会議に参加していただき、サービスの取り組み方などへの助言をいただいたり、入居の方の生活の様子を報告しています。また、困難ケースや各種手続きなどでご指導をいただいております。	定例的には、推進会議への出席の際に、その場で意見交換や情報交換を行なうほか、普段は、電話やメールで連携を図っている。インフルエンザ対応など助言や意見等を得る場合には、出向いて行い、緊密かつ円滑な連携が確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示するとともに、身体拘束排除に関するマニュアルに基づき、見守りに重点をおき身体拘束は行っておりません。施錠も日中は、行っていますが、夜間のみ防犯のため施錠しています。転倒防止のため、人感センサーを使用していますが、センサーで行動が制限されないように職員間で注意しています。	日常の会話等の中で、気になる場面や言葉遣いなどがあったときには、随時、皆で話し合い注意するよう心がけている。今後は車椅子やベッド柵の利用などにおける基本的な対応の考え方について、勉強の場を設けて意識の高揚・共有・実践に努めたいとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人及び事業所として「身体拘束排除・虐待防止宣言」を行い、宣言を掲示して、虐待のないように職員に周知徹底を図るとともに、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「成年後見制度」「日常生活支援事業のご案内」などの冊子を利用して職員研修を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をもって説明をし、質問や疑問、要望をお聞きしています。その上で理解・納得をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入口に意見・要望を記入できる用紙を設置しています。また、ご家族様の面会時に生活の様子をお伝えするとともに、ご家族様宛にアンケートを実施して要望、ご意見を伺っています。その結果は職員会議で報告、周知し迅速に対応するようしています。	利用者・家族の意見を踏まえ、居室の適正温度管理を図るため居室に温度計を設置するなど、利用者・家族の意見を大切にしたい改善を図っている。また、家族アンケートを実施したり、広報を活用しながら意見を出しやすい環境づくりもしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案を管理者をとおして代表者に報告・相談し、改善できるものは早急に改善するよう努めています。また、月1回のカンファレンス時には理事長も出席しており、職員の意見を聴いています。意見は備品の購入などに反映されています。	毎月定例の職員会議やケースカンファレンスの場を利用し運営面で気付いた点、例えば、掘りごたつの設置、家電製品の買い替え等を提案し必要に応じ対応している。なお、仕事を離れての懇親の機会も設けるなど、職員が何でも話しやすい雰囲気づくりにも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して代表者へ状況報告をしています。定期昇給を実施したり職場環境の整備や必要な環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のカンファレンスを開催して、理事長が講話したり、勉強会をしています。また、個々のケアの実際と力量に応じ、法人外の研修を受ける機会を確保しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に出席し他施設と交流の機会を作っています。同事業所のグループホームのカンファレンスに出席するなどして勉強会等での交流を図っています。その際の意見や感想を職員で検討し、サービスに活用しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設を見学していただいたり、要望や不安なことなどをお聞きしています。家族や利用している事業所から情報を提供していただき、安心して入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の際には施設のサービス内容を説明しながら要望・質問に応えて、入居までの時間を充分とり、不安が軽減できるよう配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の希望をお聞きするとともに、ADLの状態を把握し、必要とする支援を知るよう努めています。医療ニーズの高い入居者には医療連携を図っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や料理、慣わしなど人生の先輩として知恵やアドバイスをいただいています。家事や作業などで支えられている部分が多々あります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報を通じて生活の様子を伝えたり、情報交換を行いながら家族状況を考慮し、行事に参加していただいたりして絆を維持できるよう、また、通院や外出などご家族の役割も担っていただきご本人を共に支えるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や床屋など今まで行っていたお店に行ったり、かかりつけ医もできるだけ以前からかかりつけ医に行くなど、以前からの知り合いなどと交流できる機会を作るように配慮しています。	地元の利用者が多いこともあり、馴染みのスーパーやかかりつけ医、理美容などに出掛けた時には、多くの馴染みの人と会うことから、ゆっくりと話せるよう配慮しているほか、友人や知人、親戚の来訪を大切にするなど、これまでの繋がりを大切にしたい支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について職員間で情報を共有し、座席の工夫や余暇活動を通して交流が持てるよう支援しています。また、職員が間に入り孤立せず友好的関係が築けるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退院後身体状況から他事業所に入所する際には、ご家族の相談、事業所への連絡・調整を行いながら、いつでも相談に応じる旨を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話を通じて意向・希望を把握できるよう努めています。職員は本人とのかかわりの中で、意向を把握しており、月1回のカンファレンス時に情報交換し、サービスに反映させています。	買い物や入浴時等の何気ない会話から本人の思いや意向の把握に努めているほか、各部屋担当者と利用者とのかかわりの中での話し合いや、家族から小まめに聞き取った情報をホーム独自の24時間シートに記載整理しそれらをカンファレンス等で話し合いの反映に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族より生活スタイルをお聴きしたり、前事業所より情報を得ることで混乱することなく生活できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、連絡ノートを活用し現状の把握に努めるとともにカンファレンス時に職員が情報を共有できるようにしています。24年度はご家族アンケートを実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の本人との会話の中や家族との面談の中で意向を話し合ったり、問題点や希望などカンファレンス時に話し合い、ケアに取り組むとともに介護計画を作成しています。	様々の機会を通じて得られた利用者・家族の思いや期待の実現を図るため、モニタリングやカンファレンスの際に、その関わりから得られた情報をもとに全職員でアイデアなどを出し合い検討しながら介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録と連絡ノートで日々の様子や気づきなどを職員間で情報を共有し、支援しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて、本人、家族の要望をお聞きしサービスの提供や変更を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのある商店で買物をしたり、地域の夏祭りに参加したり、また、公民館の文化祭に出展し見学に行ったりと地域の一員として生活を送っていると思えるよう支援をしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望されるかかりつけ医に受診しています。かかりつけ医が変更になる際は、ご本人ご家族が納得の上で変更されています。受診の際には、家族の付き添いが原則としていますが、必要時は職員が同行しています。	医療受診のときは、家族同行を基本としているが、家族同行が難しいときや、体調について医師に説明を要するときは職員が同行するなど臨機応変に対応している。なお、普段は訪問看護師をお願いしており、その結果を医師に伝えるなど健康管理に配慮している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要ように応じて、訪問看護師に情報提供し相談しています。体調の変化を把握しながら、受診時のアドバイスや受診後の報告を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族、医療機関と事業所間で情報交換に努め、対応しています。入院時は、薬の情報や生活の様子を伝え、退院時には病院内のカンファレンスにも参加し退院後のケアの指導を受けたり、看護サマリーの提供もお願いしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針を家族に配布するとともに、指針を運営推進会議にも提示し、職員研修会も開催して指針を共有を図っています。	重度化及び看取りに関する指針を作成しており、対応の在り方について、家族に配布し説明している。実際に対応が必要になったときは、家族と再確認を行ない、最善の対応をとるよう職員間で確認している。なお、職員の看取り対応の研修について今後更に充実をしたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを見直し中で、職員は普通救命講習を終了しており、緊急時の救急車の要請や家族連絡の仕方を話し合い職員で情報を共有しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中想定、夜間想定で実施しました。併せて、通報訓練、消火訓練も行っています。今年度は防災協力員として近隣の方を委嘱して、避難訓練に参加していただきました。また、地区センターで行われた避難訓練にも参加しました。	消防署立会いのもとで避難及び通報、消火の各訓練を実施しているほか、今年度から新たに防災協力員として近隣住民の協力が得られ支援体制がつくられている。なお、地区センターの避難訓練に参加し3.11を教訓とした地震対応について学習したほか、AED設置施設として地域防災マップに掲載されるなど重要な役割を担っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に関する規程及び運用管理規程に基づくとともに、人格を尊重し、不快な思いをさせないような声かけを行うよう配慮しています。大きな声や命令口調にならないように心掛け、入居者の気持ちや誇りを傷つけないよう、また、不安な気持ちにさせないよう支援しています。	利用者の名前の呼び方や言葉づかいなどで、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。とりわけ、排泄誘導時における声かけには、近くで小声を心がけ、不快の無いように心がけている。また、気がかりな事例があった場合は、皆で声かけ・言葉遣いについて話しあっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由に希望が話せたり、自己決定しやすい雰囲気づくりに心掛けています。上手く表現できないケースは、職員が読み取り代弁するようにしていますが、一方的に決めつけるのではなく意思の決定を待つように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ生活できるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋、美容院などなるべく本人の要望をお聞きして支援しています。また、衣類もコーディネートしておしゃれに見えるよう配慮し、クリームなど本人がいつも使っているものを一緒に買いに行ったりしてます。また、年1回は、化粧のボランティアに来てもらいお化粧の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気候の良いうちは毎日買い物に出かけ、バランスに配慮しながら好みのメニューを取り入れています。配膳や後片付けを手伝っていただいています。季節の行事には、みんなで料理を作ります。また、制限食などの工夫もしております。	献立には利用者の希望を取り入れ、買い物には利用者も一緒に行っているほか、刻み、盛付等下ごしらえなど調理する役割を担っている。利用者には可能な限り、食事づくりの場面に参加してもらうことを基本にしながら、片付け・洗い・清掃なども含めて皆で少しずつ分担協力しあっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった食事量、食事形態の工夫をしています。食事量、水分量の摂取を記録しており、十分な食事ができないときは補食を勧めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事ケアに関するマニュアルに基づき、食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れの声かけ、介助をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導するとともに、表情やしぐさから排泄のサインを読み取り誘導しています。法人内で実施した外部講師による排泄の勉強会に参加しています。	排泄記録を小まめに行い、その記録をもとに職員の適時適切な声かけや誘導した結果、トイレで排泄するようになり、入居後に、オムツ利用を止めた利用者もいるなど、職員は声かけ誘導の大切さを実感しながら、心強くケアに当たっている。	法人が排泄に関する研修のために外部講師を招聘しているが、これは職員の職員の資質向上のため、ひいては法人全体のレベル向上に繋がり、今後も各分野において外部講師による研修継続に期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表から排便の把握し、訪問看護師に相談しながら便秘薬の投与をしています。また、乳製品をメニューに取り入れたり、軽い運動などで自然排便ができるよう予防に心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助に関するマニュアルに基づくとともに、入浴の曜日は決まっていますが、その時々で柔軟に対応し、一人ひとりのタイミングで入浴できるように、また、入浴時に声かけし、入浴したくない日は翌日に入浴していただいたり柔軟に対応し、急がせることのないよう支援しています。	1日おきの週3回の入浴としているが、利用者の希望によっては毎日の入浴も可能としている。入浴を希望しない利用者には、声かけや時間を見計らい無理なく入浴できるようにしている。時には、慣れ親しんだ菖蒲湯や柚子湯など、季節感を味わってもらったり、職員との会話を楽しみに入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	畳、ソファ、ベッドなど休みたいところで、休めるようにしています。日中はレクリエーションや体操を行い夜間の安眠を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人ファイルに綴り、いつでも職員が見られるようにしています。薬が変更になった際は連絡ノートに記入し全職員が把握するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、タオルたたみ、洗濯物干しなどその人ごとの役割を持って生活できるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や地域のイベントに出かけています。家族の協力のもと毎日外出されている方もいますし、入居者の希望で温泉や山やショッピングセンターなどに出かけました。外食で好きな物を食べるなどなるべく外出の機会を増やすよう支援しています。	天候と気分と相談しながらではあるが、出来るだけ外出の機会を多くつくることを基本としている。旧小学校施設であったということもあり、普段は、緑に囲まれた校庭の中を散歩したり、時には花見や紅葉狩りなどドライブに出かけている。今後も、希望を聞きながら、気分転換、ストレス解消、適度な運動を兼ねた外出を出来る限り実施したいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていませんが、本人の希望する買い物はご家族に話し、立替えの形で利用していただいています。また、財布がないと不安になる方は、本人の了解のもと預かっており希望時に渡しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は電話できるようにしています。家族に話したいことがある時は面会時または職員を通して伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に配慮しながら毎日の清掃を行い清潔を保っています。ソファ、畳、テーブル、コタツを置いて好きなところでくつろげるようにしています。季節の飾り付けをしたり、手芸品を飾り、落ち付ける空間づくりに努めています。ソファ・畳・テーブルを置いて好きなところでくつろげるようにしています。観葉植物を置いたり、季節の飾り付けをしたり、居室に好きな絵を飾り、落ち着ける空間づくりに努めています。	旧小学校を改装した建物の中の共用空間は、広く大きな窓から明かりが差し込み、開放感のある場所である。テレビ、本、利用者の作品、ソファ、季節の植物などがあり、畳の小上がりに掘りごたつが設けられ、一人の居場所、複数での居場所があり、家庭的な空間で利用者は思い思いにくつろいでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・畳・テーブルの配置があり、その時々で好きな居場所を選べるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と相談し、使い慣れた物を自由に持ち込んでいただいています。家族の写真、アルバム、BOXや布団などを持って来られており、ご本人と相談しながら居室の配置をしています。	居室入口に、それぞれ表札を掲げ、自分の住いを演出している。多くの利用者は、着替えなど衣料品を中心とした持込となっているが、壁には、カレンダーや家族の写真を張っている。整理タンスの上には、時計や位牌・遺影、人形などを思い思いに置かれ、個性豊かに生活していることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には、本人、家族の了解のもと表札をかけて自分の部屋がわかるようにしています。また、手すりやトイレの表示で安心して混乱のよう支援しています。		